

探訪 チャレンジ企業 36

冷却プレートの専門メーカー 偉大な個人企業 ミズワ潤滑エンジニアリング：鶴来町



現在のミズワ潤滑エンジニアリング

一 世界にはばたく 個人企業

鶴来町道法寺の旧国道沿いに、一見ただけでは何の変哲も感じさせない小さな町工場がある。ありふれていて特に注目を払う人もいないが、実はこの工場こそ、油圧・空圧・潤滑装置設計施工・機械組立で全国に名高いミズワ潤滑エンジニアリング（代表水口典男氏）の本社工場なのである。

機械のベットの駆動源は、従来は油圧であり、その油圧関係の仕事を主としていたが、現在は、主流のボールネジへと転換を遂げている。しかし、ボールネジから更にリニアへへと変遷をしつつある中で常に最先端を追求する経営姿勢とそれを可能にする技術力が評価され、個人企業ながらその製品は、日本を代表する幾多の大メーカーに採用され、「世界にはばたく」と形容してもよい程の成果をあげてきたのである。

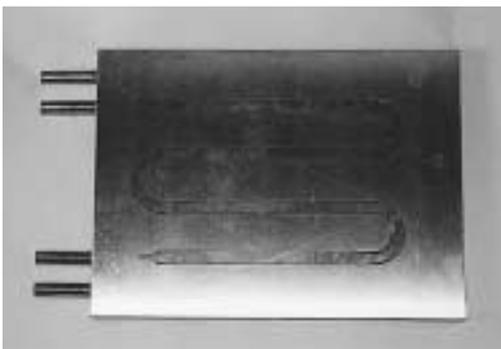
二 創業の経緯

代表の水口典男氏は、金沢市に営業所を置くある潤滑装置メーカーでサービスを担

当するサラリーマンとして勤務していた。

しかし、自分が考えたこと、自分で工夫したことを直には実行に移せないことにもどかしさを感じて、昭和五十八年に同社を退職し、ミズワ潤滑エンジニアリングを立ち上げたのである。

水口代表は、リニアでの一番の課題となつているのが発熱である事に関心を持ち、その課題に対してこそビジネスチャンスがあると考え、いち早く一歩先取りし、自社の経験と技術力を生かしリニアの一番の課題である冷却関係に取り組み事業として成立させたのである。現在では五百〜六百種類もの製品を擁する一大



同社が作る冷却プレートの一部

メーカーであるが、まだまだ開発の余地が大きく今後の成長が楽しみな分野でもある。

三 特許権の内容

冷却プレートとは、リニアが発熱を機械本体に伝えないように遮断するプレートである。機械本体に熱が伝われば必ずみが発生し、加工精度が落ちる。同社はこの分野で工夫を重ね特許権を取得することに成功した。溝を掘った二枚の金属板（熱伝導体）に銅パイプ等をはめ込みプレスで加圧して接合させ、一体化した後パイプを拡張させるといふ技術である。

昨年三月に千葉県幕張で開かれた見本市に出品して全国的に大きな反響を呼んだ。

四 未来へ向けての挑戦

同社の工場は見るからに手狭である。機械設備や製品原材料が所狭しと並べられ、極限と言つてもいいくらいの状態にある。「活気がある」と言えは言えないこともないが不便であることは間違いない。そこで同社はこのたび鶴来駅前新しい工場を購入した。現在移転の準備を進



代表の水口典男氏

めていて、五月には一部操業を開始する予定である。工場の面目はこれによって一新されるはずだが、更にこの機会に工場管理の諸手法やIT技術等を導入して、管理改善に役立てていきたい。「照会を受けたら、顧客の求めるところを読みとり、付加価値をつけて届ける」という基本方針は時代を先取りするものである。

明日が楽しみである。
（お問い合わせ）

ミズワ潤滑エンジニアリング
〒九二〇―一二二六二
石川県石川郡鶴来町
道法寺町ソ四一
TEL〇七六一―九三二五三六六
FAX〇七六一―九三二二八三三
e-mail:office@mizuwa.co.jp

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお訪ねください。